



●液中のものが空気中の実物より大きく見える原理を活かした点が新しい。

**Flamingo**

ワイングラスの脚をフラミンゴの脚に見立てました。ワイングラスを構成するボウル(本体)、ステム(脚)、プレート(台)のそれぞれにストーリーがあります。ボウルの中にはフラミンゴの上半身のオブジェクトが入っています。ステムはフラミンゴの脚の関節をイメージ。プレートは水面に入った脚をイメージし波立っています。飲み物を注ぐと中のフラミンゴが膨張して見え、口を注げば更にフラミンゴの姿が浮かび上がります。製作中に思い付きでステムにピンクのラインを入れてもらい、よりフラミンゴの脚を強調したのもも製作していただきました。



**MicroWorks 海山 俊亮**  
Shunsuke UMIYAMA

1981年東京都生まれ。在学時からオリジナルデザインの企画・製作を行い、卒業と同時に2003年MicroWorks設立。プロダクトデザインを中心に家具や空間、アクセサリーなど素材やジャンルを超え幅広くデザインを手掛ける。様々なプロジェクトで作品を発表する一方、自身のレーベルを立ち上げオリジナルプロダクトの企画・販売も行う。

**Slope Glass**

グラスの内側の底だけが斜めになっているグラス。ストローを使って飲む時、中身が少なくなるとグラスを斜めに倒して飲むことが多いと思います。Slope Glassはそんなこともなく最後の一滴までおいしく飲むことができます。



●ツイストのシンプルなデザインの中に素朴な味わいがある。

**Gravity (ドレッシングボット)**  
**Twisty (コーヒーマドラー)**  
**Grass (花立)**

金属とガラスのコラボレーションプロダクト。又は、錫の曲がる＆水を浄化するという2つの機能性を生かしたプロダクトをテーマに制作しました。



**阿部 和美**  
Kazumi ABE

ニューヨーク/パーソンズ大学を卒業後、現地で家具デザイナーとして従事。帰国後はKAZUMI abe DESIGNとして日本各地のメーカーと家具や雑貨のデザインに携わる。機能性に遊び心のエッセンスをふりかけた、ホスピタリティのあるモノづくりを心掛ける。



●視覚と聴覚を刺激する新発想。下から照明を当てると音と光の演出ができそう。

**ガラスの水琴窟 碧の水琴-アオノミズゴト**

ガラス製の水琴窟。水を張ったガラスの壺の中に水滴を落とすと「キンッ」という反響音を発生します。本来、陶器製の壺を地中に埋めて作る音の装置ですが、ガラスの透明感、硬さを生かし、卓上サイズの「見せる水琴窟」に挑戦しました。この水琴音を「深海から垂れる雫の音」とイメージし、越碧(コシノアオ)色ガラスで表現。水琴音が鳴る瞬間、水滴のはじける姿が見られるのもガラスならではの、神秘的な癒しの音に耳を傾けてみてください。



**海内 英和**  
Hidekazu KAINAI

富山県生まれ。1992年東海大学教養学部芸術学科デザイン学課程卒業。積水化学工業を経て、2000年より富山県の樹ナガエ勤務。オリジナル商品の企画・デザイン、知的財産権管理を中心に担当。

◇水琴窟＝日本庭園の装飾の一つで、水滴により「琴」のような音を発する仕掛け。



●机の上にあると揺らして遊んでしまいそうな親しみやすいデザイン。

**SWING**

デスクの上でゆらゆら揺れるペンスタンドです。



**小林 幹也**  
Mikiya KOBAYASHI

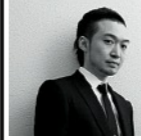
2005年武蔵野美術大学工業デザイン学科インテリアデザインコース卒業。05～06年インテリアデザイン会社勤務後、06年MIKIYA KOBAYASHI DESIGN設立。家具やプロダクトからスペースデザインまで幅広く活動。08年国際家具デザインコンペティションで初入選。08年富山プロダクトデザインコンペティションでランプリ受賞。



●中に光を入れると宝飾品をより美しくディスプレイできるのでは。

**Adornare**

Adornareは花とネックレスを飾ることができるオブジェ。グラマラスなフォルムは単体ではオブジェとして機能し、ネックレスや花を生けるとそれらを引き立てるよう演出します。グラマラスな人体の抽象的フォルムは、デザイナーと吹きガラス職人のイメージの共有から生まれました。季節の花を加えるなど汎用性のある仕器として宝飾店等での使用を想定しています。



**PORE 根本 崇史**  
Takafumi NEMOTO

POREは高校時代を過ごしたSinga'poreからのニックネーム。2001年日本大学芸術学部在学中に「PORE OVER IT! (よく考える)」をキーワードに活動始める。04年大学を卒業し電機メーカーのデザイン部に所属する。09年POREとして本格的に活動をスタート。グッドデザイン賞など受賞多数。



●アイデア次第で使い方の可能性が広がりそう。複数使ってダイナミックな世界を表現してみても。

**によるによる**

錫製の花入れ・フック・小物入れです。錫の特性を生かして、によりと丸めてテーブルの上に置いたり、壁にかけた状態で使うことができます。



**橋本 潤**  
Jun HASHIMOTO

1971年東京生まれ。96年千葉大学大学院修士課程修了後、スタジオ80にて内田繁に師事。2007年フーニオデザイン設立。08年ミラノ/サローネサテライトデザインレポートアワード優秀賞受賞。プロダクト・家具から住宅・オフィス、商業施設まで、空間に関わるデザインを中心に活動。人とその周りを取り巻く環境の関係を見つめ考察し、可能性を広げるデザインを目指す。



●切り口や高さの微妙な違いに曲線の良さが感じられる。

**BIN ビン・ウォーターボトル**

夜中目が覚めて、冷えたグラスでおいしい水が飲みたいと思うことが何度もあった。ただボトルにグラスが組み合わさってほしいわけではない。水を入れるべきかたち、冷やすべきかたちをずっと探していた。見つけたのは冷蔵庫をあけるといつも入っているものだった。キンキンに冷えた、誰もが思う冷えたかたち。冷蔵庫に収まった姿は、あたりまえすぎて、一瞬何が新しいのかかわらない。グラスの存在さえも消えてしまった。ピンを切ったかたちのグラスはシャンパングラスのようで、リッチな感じがおかしくて、うれしかった。



**渡辺 雅志**  
Masashi WATANABE

1973年新潟県生まれ。96年東北芸術工科大学生産デザイン学科卒業。98年同大学大学院芸術工学研究科デザイン工学専攻修士課程修了。例オークヴィレッジ、東北芸術工科大学生産デザイン学科助手を経て、2004年高岡短期大学講師。05年10月より富山大学芸術文化学部講師。08年MUJI AWARD 03銅賞など。



●プレスレットや指輪などアクセサリーとしても展開できるのでは。

**METAL ROPE**

錫でできたロープ。好きな形に曲げて、コースター、マドラー、ペーパーウェイト等に使えます。今回は通常のデザインワークのように機能性やフォルムの美しさを追求するのではなく、素材や加工技術の面白さをストレートに活かしたいと考えました。簡単に手で曲げられる錫と細部まで表現できる鋳造技法。曲がる象徴としてロープをモチーフに、ロープの目で忠実に再現しました。実際に錆込んだらロープの端のほぐれまで、錆込みの面白さがより表現出来ました。



**山田 佳一郎**  
Kaichiro YAMADA

1997年武蔵野美術大学卒業後、同大学研究室助手を経て、2004年KAICHI DESIGNを設立。グッドデザイン賞受賞。日頃感じている「不快」な思いを「快適」に変えるインテリアプロダクトを中心にデザイン活動を展開している。04～06年ミラノ/サローネサテライト展。04年デザイナーズカタログ10.07年A Dream Come True等出展多数。

作品介绍

## - Glass -

●はアドバイザーからの一言




### たま

生活に身近なガラスの存在を考えた時、ガラスと光はとても密接な関係だと思いました。電球の光、窓からそそく光…。それは、ほっとした時間と空間を私たちに感じさせる存在のようです。今回の作品は球体の水槽底部にLED照明を内蔵。水槽全体が光に包まれ、魚たちを艶やかに演出します。部屋を暗くすると、魚たちのわずかな動きでゆれる水面が天井に映ります。ひとときの心の安らぎになればと思います。

●光の屈折が美しい幻想的な作品。ガラスという素材の持ち味をうまく引き出し、活かしている。

**今岡 正和**  
Masakazu IMAOKA



富山県生まれ。愛知産業大学産業デザイン学科卒業。東京などのメーカーで家庭用品のプロダクトデザインに携わる。現在はふるさと富山県の鏡ナガエに勤務。主にインターホンパネルのデザインを担当。



### short story 01,02,03 (メダカ鉢)

メダカが高層ビル群の間や、水墨画のような山々の間、小さなお家と木々の上を泳ぐという、ユーモラスな風景を平たい鉢の中に作り出そうと思いました。先に鉢を作り、その中に各パーツを付けていくのですが、位置やタイミングが難しく制作者の緊張が作品から透けて見えます。

### トンネルの先 (メダカ鉢・花器)

吹きガラス作品の時間をとめたような造形美を強く意識した作品です。この作品の形状は制作者のセンスとテクニックに大きく左右されます。力強いカーブはデザイン制作者の技による表現と言えます。スケッチして図面をおこし制作するのではなく、工房の雰囲気、制作方法などからそのままイメージして生まれました。

●作品にストーリー性があり、目の前に風景が浮かぶ。両作品ともアイデア次第で様々な使い方ができ自由度が高い。

**高橋 聡**  
Satoru TAKAHASHI



1972年生まれ。プロダクトデザイナー。デザイン設計事務所を経て99年So-design設立。医療機器、ヘビー用品、照明、アクセサリなど様々なアイテムのデザインを手がける。2004年記憶をテーマとした作品「common memory」、07年「a part of you」を発表。同年よりガラスのアクセサリシリーズ「dawn sketch」を製作。



### 型吹きと宙吹きが混在するコップ

吹きガラスでしか出せない形を作りたいと思い、型吹きの型に隙間をあけ、型に閉じ込められるガラスと隙間からはみ出てくるガラスが混在するものを考えました。型の軸をずらしたり隙間の大きさを変えたりすると、どれも面白い形に出来上がりました。

### おにぎり・ケーキ・シュークリームカバー

おにぎり、ケーキ、シュークリーム形の、それぞれの専用フードカバー。パズルのように思わすかぶせてみたくなるフードカバーです。大好きな食べ物を大事に覆えるものを目指しました。

●宙吹きと形吹きをミックスさせるアイデアが斬新。フードカバーはどれも同形なのに中身で個々の表情が異なり面白い。

**switch design**  
(瀧ひろみ・大畑 友則)



たきひろみ・1976年静岡県生まれ。97年短期大学美術学科陶芸コース卒業。2004年switch designをスタート。06年多摩美術大学造形表現学部デザイン学科卒業。06年やまデザイン賞受賞。  
おおはた ともり・1977年静岡県生まれ。2001年武蔵工業大学工学部機械工学科卒業。2004年switch designをスタート。05年多摩美術大学造形表現学部デザイン学科卒業。



### Float Glass(フライングラス) Float Cup(アイス用コーヒークップ)

ガラス製品で私がHappyを感じるのがフライングラスでした。そこでワインの色、香り、味を際立たせるために、中のワインがまるで空中に浮かんでいるような浮遊感のあるデザインにチャレンジ。また冷たい飲み物が好きなのでアイスコーヒーのカップも作りました。ガラスの涼しげな印象が冷たい飲み物によく似合い、カップの中の飲み物が見えると美味しさが伝わります。

### Pink Gold Spoon(ピンクのスプーン)

金から生まれたピンク色のシンプルで小さなスプーン。さじ部分を2つつけて、どちらを持ってでも使えるようにしました。

●中心がずれている作品は制作難易度が高いが、軸の真っ直ぐな作品にはないユニークな表情の作品に仕上がった。

**加賀 武見**  
Takemi KAGA



1997年アンドレア・プランツィ事務所在籍。2002年/オラ・ナポーネ事務所在籍。06年ミラノでスタジオタケミ設立。ミラノの美術大学NABAにて講師。08年東京に移転。日本工学院専門学校インテリア・プロダクトデザイン科講師。

## - Metal -

●はアドバイザーからの一言



### 真鍮の指抜き三種 三日月 日食 杵

真鍮の鏡肌仕上げとヘアライン仕上げの指抜きです。真鍮は酸化による色調の経年変化や使い込んで出る艶が楽しめる、一緒に年を重ねていく素材です。使う機会が少なくても使いたいときすぐに見つかるよう、部屋の見えるところに置いておきたい指抜きを目指しました。「三日月」「日食」はビール瓶の首にかけられます。片手に指抜きを引っかけてビール瓶、もう一方の手にグラスを持って好きな場所で飲んでください。「杵」は外側がヘアライン仕上げ、内側が鏡肌仕上げで、コントラストが特徴のシンプルな指抜きです。

●手元に置いておくだけで絵になる作品。研磨した肌とそのままの鏡肌、両方に味わい深い良さがある。

**大治 将典**  
Masanori OJI



1974年広島生まれ。97年広島工業大学環境学部環境デザイン学科卒業。建築設計事務所、グラフィック事務所を経て、99年「msg」(エムエスジー)を設立。2003年JIDAデザイン主催デザインアワード優秀賞受賞。ココロ主催コクデザインアワード03年優秀賞受賞。04年優秀賞受賞。04年拠点を東京に移し、07年「Oji & Design」に社名変更。日用品のデザインを中心に活動。



### 色気を感じるプロダクト 鍵のカフス

女性から男性に鍵を渡す。女性から見ればただのカフスのプレゼント。でも男性の頭にはいろんなことがよぎる。そんな場面は浅はかでも、絶妙なコミュニケーションが生まれる。

### 色気を感じるプロダクト テープカッターのような線香立て

重みを感じる真鍮にはそれだけで男らしさを感じられる。スクエアでどっしりと。これこそ目指す男の姿。

### 色気を感じるプロダクト ヒールの形の輪挿し

花を性別に例えるなら勝手に女性に決め付けている。どうせなら思いきり女らしく見せてやろう。

●カフスのスムーズな取り外しに、銅の曲がる特製を活かした点がユニーク。どの作品にもどこことなく色気が漂っている。

**BLUES DESIGN**



中村友治、藤井邦人、元山大輔、小林和生によるデザインユニット。自動車、家電、産業機器を中心に形あるもののデザインは何でもこなす4人組。超越した発想でときめきを大切にしたい世界観の商品開発を目指します。



### Honey spoon

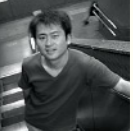
ハチミツ色の真鍮でハチの巣形のハニースプーンを作ってみました。ハチの巣からこぼれる新鮮なハチミツを、そのまま塗る感覚で使えばきつと美味しさも倍増するでしょう。

### Hole

錫の軟らかい特性を活かしたプロダクト。使う最初の作業は完成品を壊すことです。オレンジの皮をむくように裂け目を広げ、器として使います。この器でハーブやカイワレなどを育て、食卓に置き、食事の時に収穫し料理に彩りが添えられるといいと思います。植物が硬い壁を突き破って出てきたように見えるのも面白いと思います。

●錫だからといって無理に曲げなくてもいいことや、銅の表面の美しさに気付かされた。

**渋谷 哲男**  
Tetsuo SHIBUYA



1974年埼玉県生まれ。プロダクトデザイナー。使いやすいとユーモアを程よく織り交ぜながら、モノとコトの関係をシンプルに導き出していくことを念頭にデザイン。2003年、2006年富山プロダクトデザインコンペティション入賞。07年100% design tokyo出展。08年ミラノサローネサテライト出展。



### moon

三日月が見える錫の器。錫の持つ独特な雰囲気、夜間に浮かぶ月の表情に重ねてデザインしました。器の中には三日月形の段があり、お酒を通してゆれる三日月や、コーヒーを飲むうち現れる三日月を楽しむことができます。サイズはショットグラス、コーヒークップとボウルの3タイプ。

### fire

火の形をした真鍮の鍋敷き。鍋やヤカンのをせるとまるで火に掛かっているような格好に。コトコト、シューシューと、楽しい音が聞こえそう。調理中、火の形の凹みに菜箸を置くことも出来ます。サイズは強火と弱火の大小2タイプです。(アッシュコンセプトから発売予定)

●一見軽そうだが持つと確かな重量感がある。飲むうちに底から月が出る仕掛けには一度使ってみたくなる魅力がある。

**NIIMI**  
(新見 拓也・新見 祐紀)

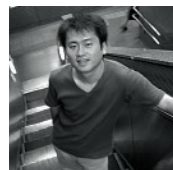


2005年新見デザイン事務所を設立しNIIMIとして活動開始。07年MLJI AWARD 02金賞受賞。06年、08年ミラノサローネサテライト出展。無理のないものづくりを目指して活動中。  
にいみ たくや・1995年武蔵野美術大学卒業。2002年渡伊。デザイン事務所 studio Ex. D di mizu 水とも子氏に師事。現在、武蔵野美術大学非常勤講師。  
にいみ ゆき・1995年武蔵野美術大学卒業。2001年渡伊。フィレンツェとミラノにて家具修復を学ぶ。



## 茶器とネコ皿

注ぎ口と茶こしが一体化したシンプルな茶器。ガラスの透明感、茶こし部のシャープなデザイン。これで冷茶を入れるとおいしいだろうとスケッチしていたら、我が家のネコが自分の食事に皿も作ってほしいと訴えてきた。そこで、ココナッツを半分に切った様な可愛い皿をデザイン。食事中に皿が動かないよう、ガラスを肉厚にして安定感を出した。洗いやすく衛生的なガラスの皿は、きっと永く付き合えると思う。限られた時間内にガラス作品を作ることは、予想より大変だったが予想以上に面白かった。現場で発生した問題をその場で解決する。皿の底面が透明になりネコのマークが入っているのは、現場での偶然と遊び心から生まれた。



### 渋谷 哲男

しぶや てつお・1974年埼玉生まれ。デザイナー。育英工業高等専門学校工業デザイン学科卒業。日常生活を観察・考察し、シンプル・機能性・ユーモアのバランスをとりながらプロダクトをデザイン・提案している。



## ripple wrap

波紋のように広がったボウルの縁をぐるっと包み込む色ガラスが、ボウルの真ん中に落ちた雫石に映りこんで、透明なガラスなのにほかに色がついているようです。家族みんなで取り分ける大きなサラダボウルから、家族のそれぞれが必要な大きさに合わせた取り皿まで。小さなうつつはドレッシングを作ったり、オリーブオイルやバルサミコ酢をまわしかけたり。普段の料理がちょっとだけ楽しくなるでしょう。身長190cmのガラス職人、つださんが背中を丸めて作ってくれた、直径5cmの器もちゃんと役目があたります。



### 奈良 雄一

なら ゆういち・東京生まれ。ヴェネツィア建築大学卒業。ムラノ島のガラス工場Coboking Glass Factory勤務後、イタリア人建築家Federico Traversoとデザインユニット41DESIGN設立。2006年能登デザイン室開設。現在能登島在住。



## fura-fura

「メタル鑄造」は「金属のかたまり」を作る。「金属のかたまり」は「重い」。このワークショップで何を作ろうかと考えたとき、これが、単純な私の頭に浮かんだことでした。実際触れてみた「アルミのかたまり」はそんなに重くありませんでしたが、フォルムがそのまま重心になるというのに惹かれ、フラフラするプロダクトを作ってみたくまりました。身近な細々したモノを取ったり置いたりするたびに、フラフラフルフルと応えてくれる無垢なかたまりは、愛着という言葉が似合う、かわいい存在になりそうです。



### 磯野 梨影

いその りえ・1987年武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業後、ソニー側デザインセンターに入社。95年同社退社後、PSD Associates(英)でSwatch Telecom社製品を手がける。97年帰国し、出産育児のためデザイン活動を休止。2000年よりPear Design Studioとして、活動を再開。06年よりハンタンデザイン研究所非常勤講師。



## KUBOMI

「いれもの」とは、物を入れるもの。物が入るようになっているもの。つまり物が入るくぼみがあればいい。僕は入れもののくぼみをデザインした。くぼみに残った痕跡は、入れものに表情と言葉をあたえた。

「あなたは何を入れてくれる？」  
そう話しかけられた気がした。



### 渡辺 雅志

わたなべ まさし・1973年新潟生まれ。96年東北芸術工科大学生産デザイン学科卒業。98年同大学大学院芸術工学研究科デザイン工学専攻修士課程修了。(例)オークヴィレッジ、東北芸術工科大学生産デザイン学科助手を経て、2004年高岡短期大学講師。05年10月より富山大学芸術文化学部講師。

G L A S S M E T A L



## 作品1:Hills

丘の風景が見えるボウル。ガラスが重なり合った時に色が変化する魅力を、速くへ連なる丘の稜線に重ねてデザインした。3つのボウルは、異なる緑の形をしている。一つで使っても、重ねても楽しい。

## 作品2:pitcher

「つば」のある小さな容器。水平に延びた「つば」が、安定した掴み心地と、どの方向からでも持ち変えずに使える注ぎ口を作り出す。ドレッシングやミルクが、より自然に注がれる。

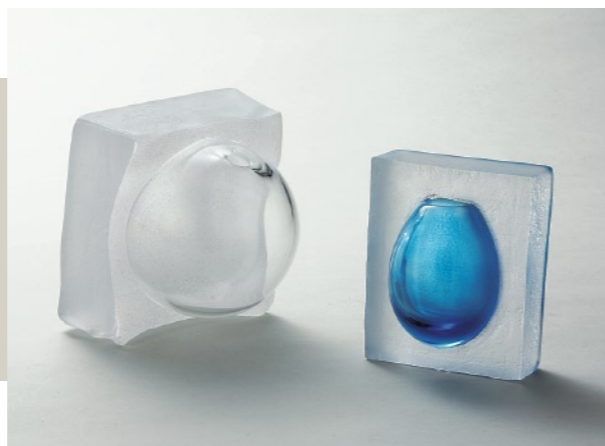


### NIIMI (新見拓也・新見祐記)

にいみ たくや・1971年長崎生まれ。95年武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業。02年渡伊、デザイン事務所studio Ex. D di mizu 水とも子氏に師事。武蔵野美術大学助手・デザイナー。

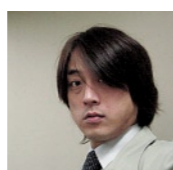
にいみ ゆき・1972年神奈川生まれ。95年武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業。01年渡伊、フィレンツェとミラノにて家具修復を学ぶ。家具修復家・デザイナー。

05年新見デザイン事務所を設立しNIIMIとして活動開始。06年ミラノサローネサテライト出展。07年MUJI AWARD 02金賞受賞。



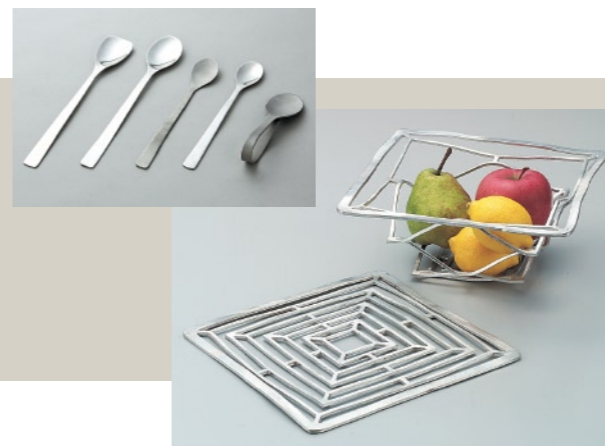
## ETD!(Excavate a transparent design!)

製品をデザインするという作業は、美しさはもちろん使い勝手やコストetc.全てにおいて、ベストはどこにあるかを深く探る作業であると考えます。そして、例えば完璧と呼べるデザインがこの世に存在すると想定した場合、そのデザイン過程はまるで地層に埋まった自然物を発掘するような作業。つまり意図的に創られた形とは対極にある、「無理がどこにもない答え」を掘り当てるような作業なのではないかと考えました。今回は、その空想のデザイン過程を具現化することに無理矢理挑戦！そのことによって生まれるガラス造形の楽しさを探りました。



### 青井 一暁

あおい かずあき・1973年高岡にて彫金を生業とする家系に生まれる。現在、営業企画として例ナガエアート事業部に所属。



## 作品1:すずの曲がるさじ

混じり気のないすずでつくったさじは、やわらかく、かんたんに形を変えてしまいます。ぐにやりと曲がってしまうさじは頼りなく見えますが、いろんな場面で活躍するしっかりものになりました。

## 作品2:すずの伸びるうつつ

このうすくて平らなすずのプレートは端っこを引っ張ると、まるで紙細工のようにするすると伸びて、さまざまな表情のある立体的なうつつになります。小さな型から大きなかたちが生まれるのです。



### 小野 里奈

おの りな・宮城県生まれ。建築設計事務所勤務。KONSTFACK(スウェーデン)留学などを経て東北芸術工科大学修士課程修了。同大学で助手を務めたのち、現在フリーで活動中。富山プロダクトデザインコンペディション2004とやまデザイン賞など。



## 作品1:錫の曲がる卓上鏡

鏡の「手で曲がるほど柔らかい金属」という特性を活かしたプロダクトの提案です。鏡を取り付けているベースが錫でできています。ベースを手で曲げて鏡の角度を合わせることができます。

## 作品2:アルミの文鎮ペントレイ

玄関などに置くペンや印鑑のためのトレイ。トレイ自体が文鎮になっているので、例えば宅急便が届いた場合、受け取りのサインをしたあと、控えの紙片を一時の間そのまま文鎮ペントレイの下に保持できます。



### 大谷 将典

おおた まさのり・1974年広島生まれ。97年広島工業大学環境学部環境デザイン学科卒業。建築設計事務所、グラフィック事務所を経て、99年「msg」(エムエスジー)を設立。2004年拠点を東京に移し、07年「Oji & Design」に社名変更。日用品のデザインを中心に活動。

G

L

A

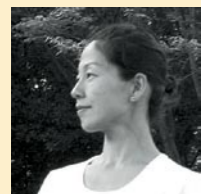
S

S



【枝ピンと木の実グラス】

植物は、水で支えられています。その伸びやかな生命力を、ガラスで表現してみたいと思いました。雨風などの自然によって変化する木の生長のプロセスは、温度や重力、遠心力、空気力など様々な条件によって変化するガラスの手技に通じているようで、1つ1つが少しずつ違っていることが、とても自然でいとおしく感じられました。枝の中にある命を支える水を、色とりどりの木の実に注いだら、きっと甘露にちがいないでしょう。



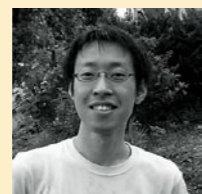
磯野 梨影 Rie ISONO

武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業後、ソニーデザインセンターに入社。ビーンズウォークマンなどをデザイン。1995年同社退社後、PSD Associates (英) でSwatch Telecom社製品を手がける。97年帰国し、出産育児のため休止。2000年よりPear Design Studioとして、活動を再開。



【午後の退屈】

熱されたガラスが竿の先で、トロトロと形を変えていく面白さには魔力があります。ガラスの性質と重力、遠心力などを瞬時に判断して造形するのはワザなんですけど、練られた技はまるでガラス自身が意思を持って形を変えているように感じられます。そんな彼らがニコニコと体をくねらせてキュートに挨拶をしました。



梅田 泰輔 Daisuke UMEDA

愛知県生まれ。愛知教育大学で鋳型鋳金を学ぶ。2005年職能作入社。鋳物場で汗する日々。

M

E

T



【90°-shoehorn-】

テンションがかかっているときの身体は美しい。あるダンスの舞台を観ていて感じた。動きの中で時間が止まったかのような瞬間。最大限に伸ばされ、捻りの加わった四肢。その瞬間が眼底に焼き付いた。それに共通するものが日常の中にもある。モノを使う行為の中にも。日常の中の行為の一つ、靴べらを使う行為の中にもそれを見た。動きのプロセスのなかにあるそれを身体の外に封じこめることにより、瞬間の美しさをモノへ封入することを目指した。またそれは身体に起こる捻りを外に取り出すことにより、身体的負担を減らすことにも繋がる。今回の制作に際し沢山の御尽力を賜りました皆様へ厚く御礼申し上げます。



五十嵐 広威 Hiroi IGARASHI

東京都生まれ。多摩美術大学美術学部立体デザイン専攻卒業。富山プロダクトデザインコンペティション2004準とやまデザイン賞受賞。

A

L



【CRESCENT MOON】

情熱的な太陽よりも、神秘的でクールに光る月が好きです。アルミの光り方ってこっちだと思います。そのアルミで、三日月の形を基本に高さの異なる器を制作しました。組み合わせることで使い手の自由な配置を楽しめるようになっています。



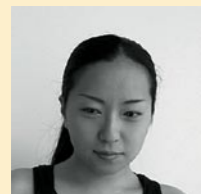
小島 有香子 Yukako KOJIMA

千葉県生まれ。多摩美術大学立体デザイン専攻クラフト(ガラス)卒業。2006年富山ガラス造形研究所研究科卒業。05年Glass Art Society国際学生展 in Adelaide (AUSTRALIA) 奨励賞、第45回富山県デザイン展グランプリ、06年第3回現代ガラス展 in 山陽小野田審査員賞。



【PS.1 -リング-】(右) 【PS.2 -だえん-】(左)

ガラスのテーブルウェアの中で、そういえば持っていない、と思った脚付きのグラス。日常生活にもう少しだけ馴染んでくれるよう、カタチに「おまけ」をつけたら新しい2つのグラスができました。わっかに指を入れて持ってもよし、冷蔵庫の中に倒れて冷やすもよし。



小野 里奈 Rina ONO

宮城県生まれ。建築設計事務所勤務、KONSTFAK (スウェーデン) 留学などを経て東北芸術工科大学修士課程修了。現在、同大学プロダクトデザイン学科助手。富山プロダクトデザインコンペティション2004とやまデザイン賞受賞など。



【plus one】

モノをデザインする上で、素材の特性を知ることと加工の技術を理解することはとても大事なポイントだと思う。普段のデザインワークにおいても素材に触れながら進めていくスタイルが好きだ。今回のワークショップでは、素材と技術の探求を通し、新しいカタチを作り上げることが大きなテーマであった。高温で溶かされたガラスは柔らかく見えるが指先の感覚が伴わない。その指先感覚を何とか捉えてみたい…。そんな素朴な興味のもとに作品の制作を行った。"plus one"は自作した道具を用い、ガラス素材を感じ、サポートしていただいた工房スタッフとともに作り上げたFlower vaseです。



内藤 裕孝 Hirotaka NAITO

神奈川県生まれ。北海道東海大学大学院芸術学研究所生活デザイン専攻修士課程修了。1995年高岡短期大学産業造形学科助手。99年～2000年文部省在外研究員としてCarl Malmsten School (スウェーデン) に研究留学。05年富山大学芸術文化学部助手。



【hana-7ring/花七輪】

アルミを鋳込む時に発生する「バリ」も個性ある表現の一部として制作しました。花七輪で鍋敷きとして使います。

【hana-3ring/花三輪】

アルミを鋳込む時に必要な「湯道」を作品の一部「茎」として見立てました。花三輪は飲み取ってコースターとして使います。



夏目 知道 Tomomichi NATSUME

愛知県生まれ。愛知県立芸術大学美術学部卒業。1989年近藤康夫デザイン事務所入所。99年ナツメトモミチ設立。



【祝の花器】

従姉妹の結婚を記念して作った作品。基本的な彼女の要望は「低い器・重い器・大きくない器」であった。私自身で心掛けたことは「あくまで花が主役である」ということ。花を活けて花が生きる器にするため、器のみで完結しないように注意する。制作後、実際花を活けたり置いたりして検討した上で、仕上を変にいい事に。メタリックなのに土臭い・光っているのに邪魔にならない・花に寄り添い引き立てる。従姉妹の幸せを願いつつ...



西村 智恵子 Chieko NISHIMURA

富山県生まれ。東洋美術学校造形デザイン課プロダクトデザイン学科卒業。1986年(株)ダイチ 都市アート事業部入社。91年(株)SAP勤務を経て、95年(株)ヤマシタ(当時山下ステン工業)に入社。営業部開発設計部門所属。金属素材を中心としたプロダクト製品・建築金物・建具・景観備品などあらゆるジャンルの営業～企画デザイン・設計に携わる。